



• Tackle Guide

仕掛けはテンピン、胴つきお好みで。船長は慣れない人には糸付きバリをテンピンに結び一本バリ仕掛けを推奨。絡むことが少なく扱いやすいだけでなく、船長自身もこの仕掛けでピンバシと釣りまくっていて実績も申し分なしだ。



▲船長はバリの5〜6号をよく使うとか

しているので状況を伺うと、「今日は厳しいね。テンションを抜いて待って、聞いてくるとときどき掛かるって感じ。あんまり面白くない釣りだね」と苦笑い。

斎藤船長はシロギス釣りの名手でもあり、普段は片テンピンに一本バリの仕掛けでモタレのアタリを取り面白いようにシロギスを掛けていくのだが、今日はそんな釣りにならないようだ。

後半戦は私も釣りに集中してみる。良型を連チャンし

をよくしての次投はバックンチョコとイトヒキハゼ。続いては強い引き込みでホウボウ？ 座布団ガレイ？ なんて思ったが、海面に姿を現したのはホシサメでガツカリ。

この日はゲストも少なく、船中でもバックンチョコとホシサメが時折折れるくらい。そんな中、巻き上げ途中の私の竿に突然の強い引き。ヤリトリむなしくハリス切れしたが、近くにトリヤマがあったのでこれはサバか青物だったのかな。



▲周年狙える東京湾のシロギスは季節ごとの面白さがある

# 東京湾の落ちギス好期

東京湾奥深川発！木更津沖

フィッシングライター 柏川晃 Akira Kasukawa

## いつもと様子が違う

東京深川の老舗中の老舗船宿、富士見。ハゼ釣りですとに有名だが、ハゼのシーズンが終わるとシロギスや周年狙うライトアジなどで出船している。

シロギスは初夏〜夏にも狙うが、今の時期は「落ちギス」のシーズンに当たり、数はそれほど望めないものの良型の釣趣と食味が魅力。

今期の模様はいかばかりかと2月下旬に訪れてみた。

当日は気温も低く北寄りの風が7〜8メートル予報のあいにくのコンディションとあって釣り人の出足は鈍く、3名グループと私の4名での出船。名物船頭まあちゃんこと斎藤正雄船長の操船で東京湾へと繰り出した。

タワマンやらスカイツリーやらを眺めながら運河筋から東京湾へと出ると、今度は羽

田空港の飛行機の離発着。都会風景満喫のクルージングが続くこと約1時間で釣り場に到着した。

木更津と横浜のほぼ中間辺りと思われ、中ノ瀬かな？と船長に聞くと、

「木更津沖の一番西側」との答え。

「今は中ノ瀬の南側は数は出るけどピンギスが多いらしいからね。ここは出れば型がいいから」の選択だ。

走っているときには追い風で都合のよかった北風も、船を風に立てるとそこそこの吹きよう。予報どおり7〜8メートルは吹いていると思われ、波はそれほどでもないが少々釣りづらさを感じる風だった。

船長の合図で仕掛けを投入、すぐさまブルブル！とくるとかと思っていたが、ブルブルはなかなかこない。落ちギスとはいえ、いつものシロ

「はい上げて〜」の船長の声と同時にトモに座る浜川さんが20センチ級の良型を釣り上げた。

筋を変えての2流し目、この流しではポツリポツリながらアタリが出始める。浜川さんが2尾目を釣ると、ほどなくして私の右隣の大谷さんも18センチ級のまずまずサイズを釣る。

撮影中に置き竿にしていた私の胴つき仕掛けにもアタリが出て、良型のシロギスが掛かってきた。

このまま本調子になってくるのか期待したが、そうはうまくいかず、その後のアタリは間遠くポツンポツンの展開。ただ釣れるシロギスの型がいいのは救いだ。

ここまで一人蚊帳の外だったのが、紅一点の植松さん。胴つき仕掛けで船下を狙っていたのだが、「仕掛けを張り過ぎ。もっとマイナステンションの時間を作らないと食わないよ」と船長からの指導。

同行の浜川さんに翻訳？解説してもらい、張り気味だった仕掛けを時折たるませる（マイナステンション）状態も織り交ぜるようになると初アタリが出て、バツチリ笑顔で写真に収まってくれた。

船長も操船の合間に竿を出

## まるでカワハギ釣り

相変わらずアタリは少なく苦戦が続き、残り時間も少なくなってきた12時過ぎ、ようやく時合が訪れたかアタリが活発になってくる。

しかしキャストしての釣りでではへぼ腕もあってか時折出るアタリをなかなかハリ掛かりさせられない。

この日のシロギスは、エサを見つけてもすぐには食ってこず、誘って誘ってようやくエサを口にすると感じる。しかも大潮とあって潮が速く風もあるから余計に船の移動も速い。キャストしての釣りだと誘いと誘った後の細かい操作ができていない感じ。

広範囲に探れるメリットはあるにせよ、私の腕ではデメリットのほうが大きそう、とまあ合っているかは分からないが、ここから

は船下狙いに徹することに。オモリトントンで海底に土煙を上げ、オモリを着けたままタタキを入れる（シロギス釣りではシエイクかな？）。そして仕掛けのテンションを抜いてからゆっくり聞き上げる。まるでカワハギ釣りだなと一人苦笑しながらの釣りだが、これがけっこうハマって面白い。

フッ！と竿先に出るかすかなアタリで合わせられたときには、なんか釣りがうまくなったようで自己満足。相変わらず良型ぞろいだから掛けたからの引きも楽しい。

後半はやや持ち直すと雰囲気もあつたが、全体としては厳しい一日。予報に反して風も終日止まないまま13時半に沖揚がりとなった。

私の釣果はやつとツ抜けで11尾。数的には今イチだったが、ピンギスはおろか15センチ以下のシロギスも皆無で、20センチ超の丸まるとした良型も交じった。

帰宅後は大きいものは塩焼きに、小さめ（と）いっても17〜18センチはある）

▼15センチ以下は交じらなかつた



船宿information  
東京湾奥深川  
**富士見**  
☎03-3641-0507  
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=シロギス乗合一人9500円(エサ、水付き)  
▶備考=予約乗合、7時半出船。別船はライトアジ、タチウオへも



斎藤 正雄船長

は天ぷら、その中間サイズはしゃぶしゃぶにして、この時期ならではのうまいシロギスを堪能。11尾はカミサンと二人の食卓にはちょうどいい量で、いただき物の吟醸酒にもよく合った。



▲釣りがハマると連チャンもある

## 入門にもおすすめの時期

この時期は水深20メートル以上を釣ることが多く、船下でもシロギスは船影やエンジン音を嫌うこともなくよく釣れる。キャストが苦手なビギナーさんにはうってつけて、なんならオモリトントン……トン……の置き竿でもいいから、飽きっぽい子供さん向けでもある。夏は夏、冬は冬のいいところがあるシロギス釣りは、やはり船釣り入門には最適な釣り物だと思う。



▲船下狙いで釣れる今の時期は入門にもおすすめ

●かすかわ あきら / 富士見釣行のお楽しみの一つがお土産でもらえる佃煮。釣果に関係なくもらえ、下町の老舗を感じる味でとてもおいしい。